

南アルプス市立白根巨摩中学校 学校関係者評価書（前期）

白根巨摩中学校 学校関係者評価委員会

令和5年9月5日作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日 令和5年9月4日（月） 午後5時～

会場 白根巨摩中学校 校長室

参加者 学校関係者評価委員 5名（五十音順）

穂山 貴 芦澤 秀幸 飯嶋 久
金丸 芳秀 久保田直美

学校職員 4名

笹本忠彦（校長） 小林紀浩（教頭）
足達敏弥（教務主任） 塩谷茂美（生徒指導主事）

1 学校から提案された内容

- (1) 学校関係者評価の意義について
- (2) 白根巨摩中学校学校関係者評価委員会会則の確認
- (3) 委員長・副委員長の選任
- (4) 1学期の学校評価について
 - ① 自己評価結果についての説明
 - ② 生徒の現状についての説明

2 評価されたおもな内容

領域別・評価項目別の自己評価考察について評価委員が考察検討

学校関係者評価

1 全体評価

コロナの5類への移行に伴い、学校生活がコロナ前の活動に戻りつつある中、総合的な平均が4.5（A-5点 B-4点 C-2点 D-1点として平均を出したもの）となったことは、教職員の各々の意識や実践が高い水準を保っていると評価できる。また、生徒アンケート結果の平均も4.5であり、指標の4.0を大きく上回っており、生徒にとっても良い環境で取組が行われていることが伺える。

今後は、「家庭学習の定着」、「授業でのパソコン有効活用」、「部活動の指導」の3点の課題を見据えながら、教職員が焦点をしばらく同僚性を発揮するとともに、個々の生徒や保護者に寄り添った支援を継続していくことが必要となる。そのためにも、教職員の共通意識を高め、きめ細かな教育実践に努めてほしい。

2 自己評価書に見る課題と対応について

○学校運営

- ・本校の先生方は、教職員間の目標意識の共有、協力体制が良好であることが伺える。少しずつ進んでいる部活動の地域移行等も考えながら、教職員の多忙化改善及び働き方改革を進めていく必要がある。
- ・先生方はきめ細やかな指導を基本に、熱意をもって学校運営にあたっている様子が伺える。今後も、生徒の様々な活動に対して、結果と過程をともに重視しながら、生徒の気持ちを大切にした指導を行ってほしい。

○教科指導

- ・これからの時代を生きる生徒に必要な力を身に付けさせるためにも、1人1台端末を授業や家庭学習において積極的に活用することが大切である。そのためにも、教職員の研修等も充実させながら、ICTの有効活用を推進していただきたい。
- ・家庭学習が課題となっているが、長年続けてきた「タイアップチャレンジ」等成果が表れている。今後は、宿題の質や方法についても考慮しながら、学力の定着・向上につなげてほしい。

○生徒指導

- ・生徒自身がきまりや約束を守っているという自覚をもち、学校生活に真面目に取り組んでいることが伺える。今後も生徒の自主的な活動を尊重しながら、教職員がその活動を支え、全体と個々への両面の支援を行いながら、生徒理解に努めてほしい。
- ・関係機関や専門機関との連携を行いながら、一人一人の生徒の持つ課題に寄り添った支援ができるように、職員間の共通理解を図っていくことが大切である。

○特別活動

- ・子育て世代や専門ではない教職員の「部活動の指導」には、大きな負担や苦勞が伴っていると考えられる。地域移行や部活動時間の見直し等も考えながら、教職員の多忙化改善につなげていくことも必要である。
- ・合唱は白根巨摩中学校の伝統である。学校の特色として、今後も継続した活動となることを期待している。

○健康安全・その他

- ・コロナの5類への移行後も、いまだに感染が収束を迎えてはいない現状がある。今後も必要に応じた対策を行いいながら、少しずつ以前の教育活動に戻っていけるよう、保護者や地域との連携の下に、教育活動を推進してほしい。

3 特記事項

○評価委員より、次の3点について今後も学校経営の課題として取り組むよう提言があった。

- ①不登校等の生徒への継続的な関わり
- ②ICT活用も含めた学力向上対策
- ③教職員の負担軽減につながる部活動のあり方

記載責任者

白根巨摩中学校学校関係者評価委員会 委員長 芦澤秀幸
副委員長 穂山 貴